

3 (2) 政策の重要度の選択の有無と生活実感の関係

(1) 分析目的

ある政策分野を重要と思う人と思わない人において、その政策分野の生活実感の肯定（「そう思う」と「どちらかというとそう思う」）の差を把握するために分析を行った。

この分析により、ある政策分野を重要と思っている人が重要と思っていない人よりもその政策に対して生活実感が高いか低いかを確認することができ、今後の政策や施策を検討していく上で参考となりうる。

(2) 分析方法と表の見方

ある政策分野を重要と思う人と思わない人において、その政策分野の生活実感を肯定的に捉えている人の割合の差を示したものが以下の表である。

政策分野	政策の重要度の選択率	※肯定の差
子育て支援	34.3%	-4.8%
市民生活の安全	31.1%	1.6%
消防・防災	31.1%	-1.8%
環境	30.8%	3.0%

※肯定の差

「その政策について重要と思い、かつ生活実感でも肯定的な人の割合」から「その政策について重要とは思わないが、生活実感は肯定的な人の割合」を引いたもの。子育て支援を例にとると、重要と思う 664 人の中で子育て支援の生活実感を肯定的（「そう思う」と「どちらかというとそう思う」）に捉えた人が 444 人おり、その割合は 66.9%となる。一方、重要とは思わない 1,077 人の中で子育て支援の生活実感を肯定的に捉えた人は 772 人おり、その割合は 71.7%となる。その差（66.9% - 71.7%）であるマイナス 4.8%が肯定の差である。

- ・プラスの場合…その政策が重要と思った人の方が生活実感が高い。
- ・マイナスの場合…その政策が重要と思わなかった人の方が生活実感が高い。

(3) 分析結果

政策の重要度の選択率と肯定の差の関係はあまり見られなかった。

「文化」「国際化」「観光」はその政策が重要と思った人の方が生活実感も高い一方、「土地利用と都市機能配置」「農林業」「人権・男女共同参画」はその政策が重要と思わなかった人の方が生活実感が高かった。

政策分野	政策の重要度 の選択率	※肯定の差	政策分野	※肯定の差	政策の重要度 の選択率
子育て支援	34.3%	-4.8%	文化	8.3%	14.8%
市民生活の安全	31.1%	1.6%	国際化	7.3%	11.1%
消防・防災	31.1%	-1.8%	観光	7.1%	21.8%
環境	30.8%	3.0%	景観	3.7%	20.3%
高齢者福祉	30.7%	-9.6%	市民生活とコミュニティ	3.4%	16.3%
学校教育	25.2%	-3.4%	環境	3.0%	30.8%
保健衛生・医療	23.1%	-0.3%	スポーツ	2.5%	7.2%
障害者福祉	22.6%	-7.8%	大学	1.7%	9.9%
観光	21.8%	7.1%	市民生活の安全	1.6%	31.1%
景観	20.3%	3.7%	地域福祉	1.1%	12.4%
くらしの水	18.3%	-0.3%	歩くまち	0.8%	13.3%
市民生活とコミュニティ	16.3%	3.4%	保健衛生・医療	-0.3%	23.1%
産業・商業	15.7%	-9.0%	くらしの水	-0.3%	18.3%
文化	14.8%	8.3%	消防・防災	-1.8%	31.1%
道と緑	13.6%	-9.9%	青少年の成長と参加	-2.5%	12.2%
歩くまち	13.3%	0.8%	学校教育	-3.4%	25.2%
地域福祉	12.4%	1.1%	子育て支援	-4.8%	34.3%
青少年の成長と参加	12.2%	-2.5%	住宅	-5.2%	8.7%
国際化	11.1%	7.3%	建築物	-6.3%	5.7%
大学	9.9%	1.7%	生涯学習	-7.0%	9.6%
生涯学習	9.6%	-7.0%	障害者福祉	-7.8%	22.6%
人権・男女共同参画	9.2%	-13.0%	産業・商業	-9.0%	15.7%
住宅	8.7%	-5.2%	高齢者福祉	-9.6%	30.7%
スポーツ	7.2%	2.5%	道と緑	-9.9%	13.6%
農林業	6.7%	-13.9%	人権・男女共同参画	-13.0%	9.2%
建築物	5.7%	-6.3%	農林業	-13.9%	6.7%
土地利用と都市機能配置	4.4%	-21.1%	土地利用と都市機能配置	-21.1%	4.4%